

第 27 回
英米語学科主催
講演会

『『デイヴィッド・コッパフィールド』を読む』

ことばを讀むおもしろさ

ディケンズの

日時 2019年 11月25日(月)

16時40分より(授業5講時)

会場 名古屋外国語大学 K508教室(K号館5階)

主催 名古屋外国語大学英米語学科

後援 ワールドリベラルアーツセンター

対象 名古屋外国語大学生及び教職員、
中学校・高等学校の教員、関心のある一般市民

入場無料
申し込み不要

文学がことばで成り立っている芸術である以上、文学のおもしろさは最終的にはことばにあると僕は思っています。

『クリスマス・キャロル』を読めば、誰しもスクルージの改心に心を動かされるのですが、しかし、この作品でもおもしろいのは、最初の段落に“Scrooge's name was good upon 'Change, for anything he chose to put his hand to.”という文があり、次いで“he was a tight-fisted hand at the grindstone . . . a squeezing, wrenching, grasping, scraping, clutching, covetous old sinner”によってスクルージの吝嗇ぶりが「握りしめる手」のイメージで強調され、終盤彼の死が予見されるくんだり、彼のベッド・カーテンや毛布を持ちこまれた質屋が“I hope he didn' t die of anything catching?”という科白を吐く、一連のことばの結びつきです。

「伝染性の病気」を示すcatchingがスクルージのgraspingな手を呼び起こす呼吸がなんともすばらしいではありませんか。

今回の講演ではディケンズの名高い長編小説、*David Copperfield* について、そのことばを味読する楽しさを語りたいと思っています。

講師

佐々木 徹先生

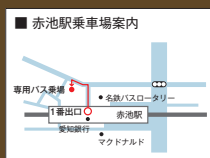
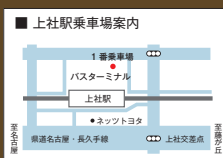
ささき とおる
京都大学文学研究科教授



京都大学文学部、ニューヨーク大学大学院修士課程、京都大学大学院博士後期課程に学び、1993年より京都大学文学部助教授、2006年より同大学大学院文学研究科教授。ブリティッシュ・カウンシル奨学金を得てロンドン大学ならびにノッティンガム大学客員研究員として連合王国に留学、また合衆国のアーカンソー州ヘンドリクス・カレッジ、メイン州バイツ・カレッジにて招聘教授を務める。
元日本英文学会会長ならびにディケンズ・フェロウシップ日本支部長。

■本学へのアクセスについて■

当日、駐車場はありませんので公共交通機関または上社駅、赤池駅からの専用バス(無料)をご利用ください。専用バスにご乗車の際は、イベントに参加する旨を運転手にお伝えください。



問合せ先 名古屋外国語大学 英米語学科 Tel: 0561-75-2609



本イベントにおける写真撮影や録音はご遠慮いただきますよう、お願い申し上げます。会場では腕章を付けたカメラマンが記録用の写真撮影を行っています。本学ウェブサイトやその他の刊行物に、写真が掲載されることがありますのでご了承ください。



※会場の温度調整が難しいため、調整しやすい服装でお越しください。

Facebook